

第54回景況アンケート調査 結果報告書

(令和4年4月25日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 4年1月～3月期》実績

《令和 4年4月～6月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和4年3月23日(水)～令和4年4月13日(水)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業211社
(うち回答企業数157社：回答率74.4%)

4. 回答企業数

製造業	59	社
繊維工業	14	社
建設業・設備工事業	23	社
卸売業・小売業	31	社
飲食業・サービス業	30	社
計	157	社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

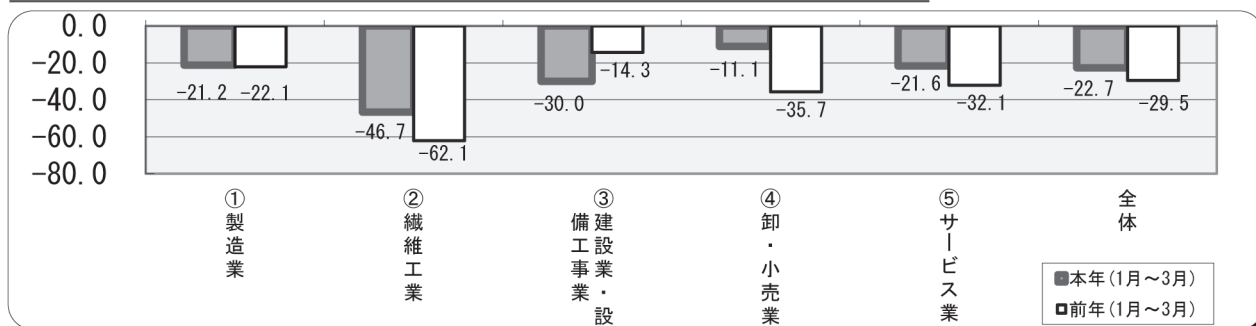
x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

I. 当期（1月～3月）の景況について

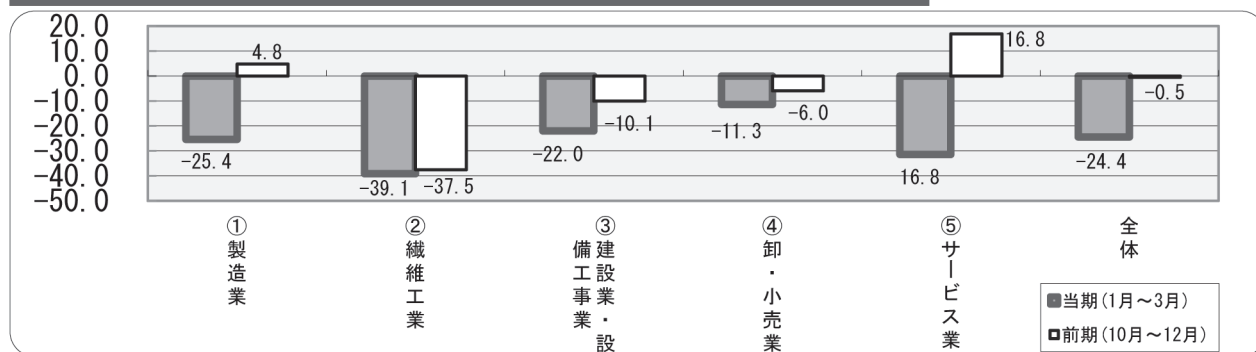
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲22.7ポイント（前年同期▲29.5）と、前年同期に比べて6.8ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業はほぼ横ばい、繊維工業、卸・小売業、サービス業ではマイナス幅は縮小したものの、依然マイナス傾向。一方で、建設業・設備工事業では、▲30.0ポイントでマイナス幅は拡大し業況は昨年同期よりも悪化した。

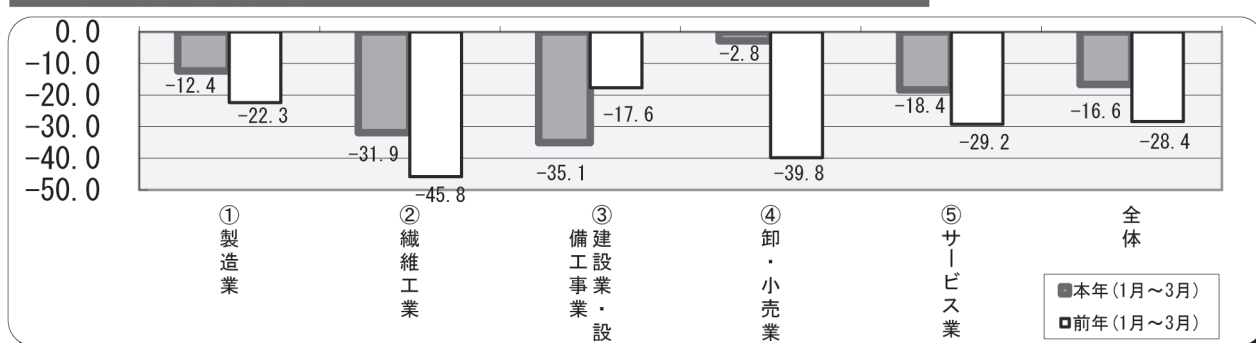
2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲24.4ポイントと、前期（前3ヵ月間▲0.5）に比べて23.9ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では、繊維工業は▲39.1ポイント（前回▲37.5）とほぼ横ばいであるが、建設業・設備工事業、卸・小売業ではそれぞれマイナス幅が拡大した。また、製造業、サービス業においてはプラスからマイナスへ転じ、前期より大幅に悪化した。

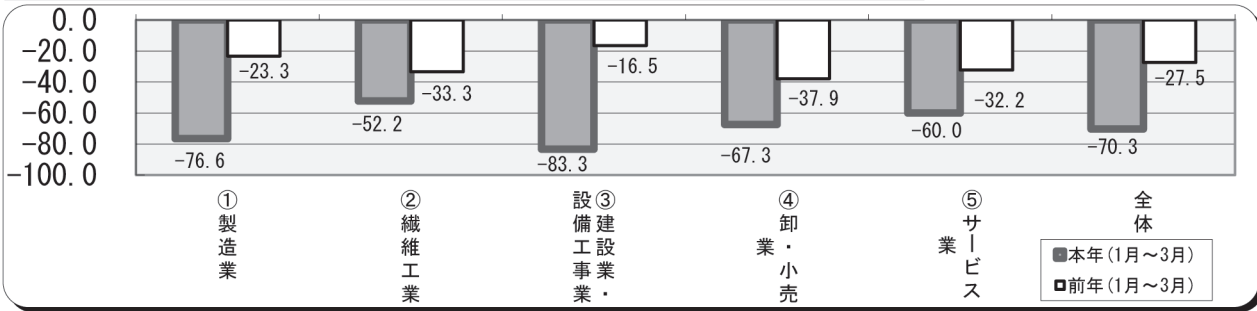
3. 売上高は前年同期に比べて



【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲16.6ポイント（前年同期▲28.4）と11.8ポイントマイナス幅が縮小している。業種別では製造業、繊維工業、卸・小売業、サービス業でマイナス幅が縮小し、特に卸・小売業では37.0ポイントと大きくマイナス幅が縮小した。一方、建設業・設備工事業では▲35.1ポイント（前年同期17.6）とマイナス幅は拡大し、悪化傾向にある。

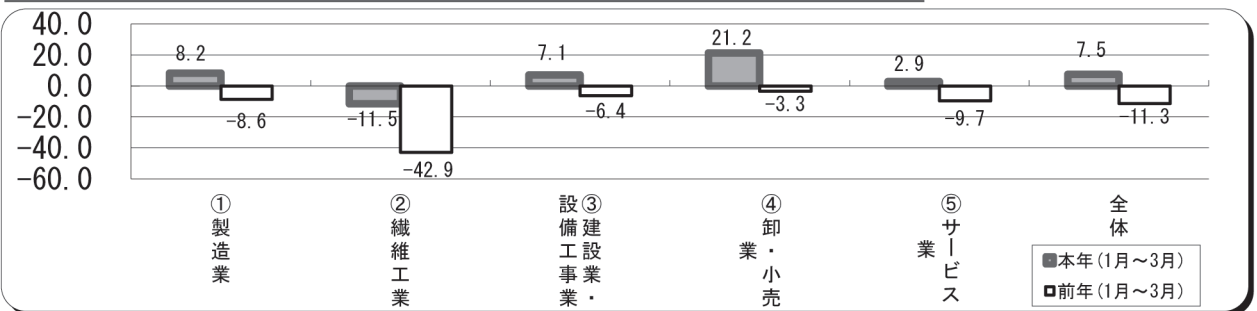
4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは、全体では▲70.3ポイント（前年同期▲27.5）と前年同期に比べて42.9ポイントマイナス幅が拡大した。業種別でも、全業種でマイナス幅が大幅に拡大しており、全体的に仕入価格の上昇が続く。

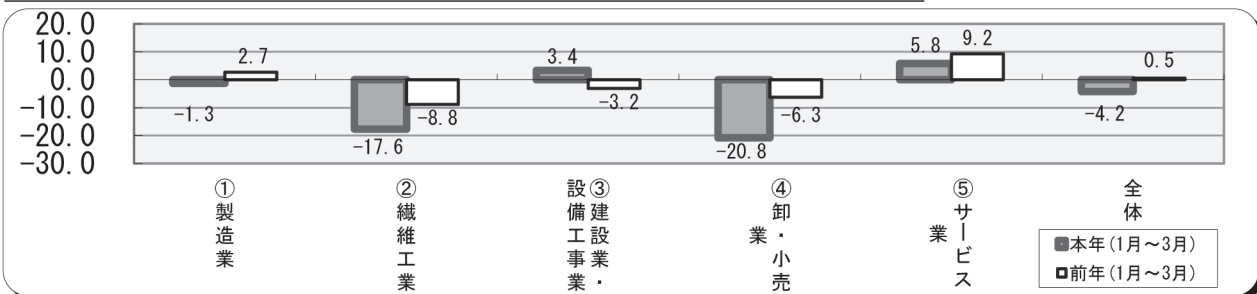
5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは、全体では7.5ポイント（前年同期▲11.3）と前年同期と比べ18.9ポイント上昇しマイナスからプラスに転じた。業種別では、製造業、建設業・設備工事業、卸・小売業、サービス業のすべての業種がプラスに転じ、受注・販売価格は前年同期と比べて上昇したという回答が多かった。

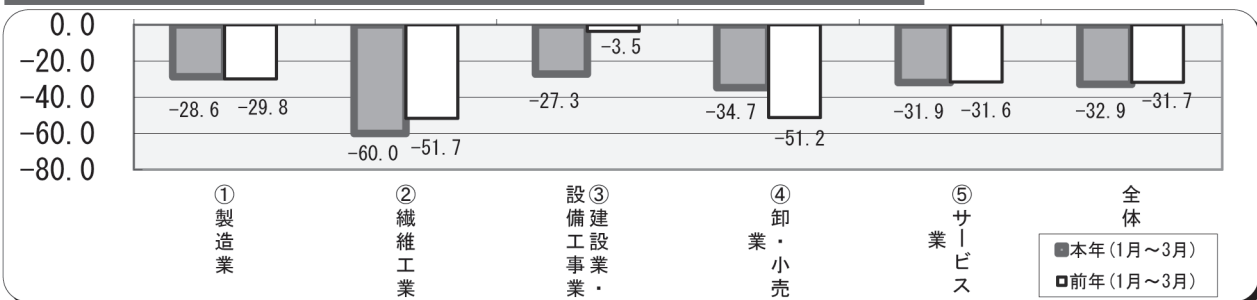
6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D Iは、全体では▲4.2ポイント（前年同期0.5）と、前年同期に比べて▲4.7ポイント減少しマイナスへ転じた。業種別では、繊維工業、卸・小売業で在庫不足にある一方、サービス業では在庫過多の傾向が続く。

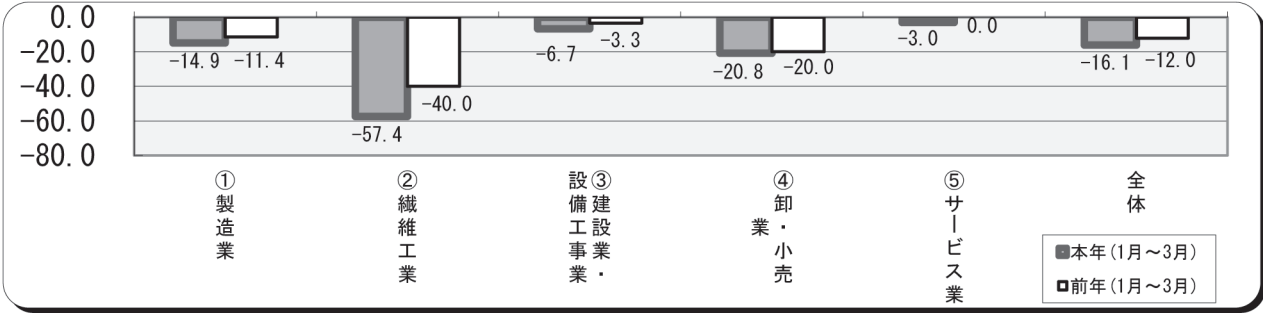
7. 利益状況は前年同期に比べて



【利益状況D I】

利益状況D Iは、全体では▲32.9ポイント（前年同期▲31.7）と、前年同期と比べて1.2ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では、卸・小売業はマイナス幅が縮小、製造業、サービス業はほぼ横ばいであるが、繊維工業、建設業・設備工事業においてはマイナス幅が拡大しており、利益状況は依然減少傾向にある。

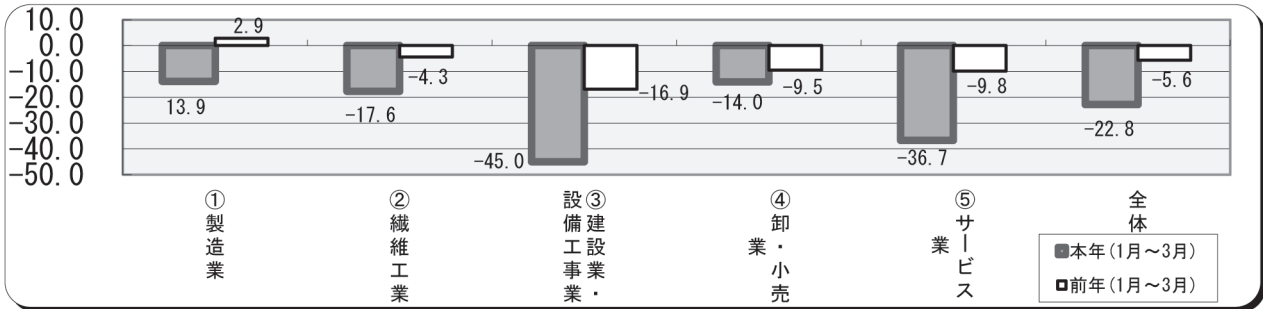
8. 資金繰りは前年同期に比べて



【資金繰りDI】

資金繰りDIは、全体では▲16.1ポイント（前年同期▲12.0）と、前年同期と比べて4.1ポイントマイナス幅が拡大した。業種別でもすべての業種でマイナス幅が拡大しており、資金繰りが悪化していると回答する事業所が多く見られた。

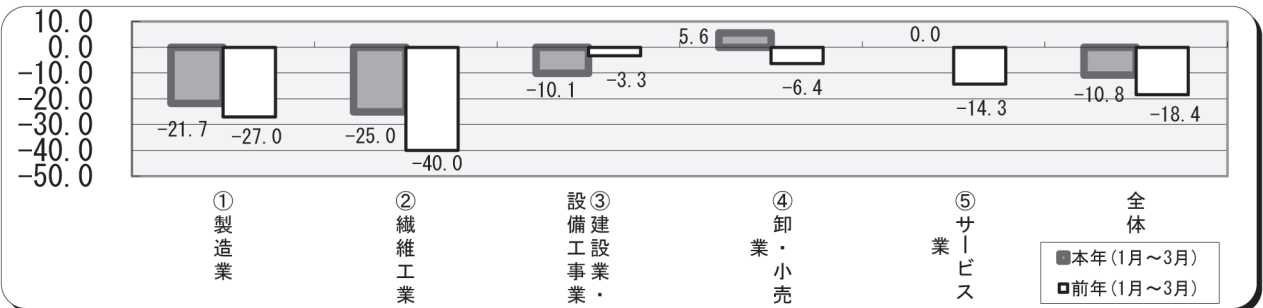
9. 労働力は前年同期に比べて



【労働力DI】

労働力DIは、全体で▲22.8ポイント（前年同期▲5.6）と、前年同期に比べて▲17.2ポイント悪化しマイナス幅が拡大した。業種別では、製造業が▲13.9ポイント（前年同期2.9）とマイナスに転じ、その他のすべての業種でもマイナス幅が拡大、全体的に労働力の不足が見られる。

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

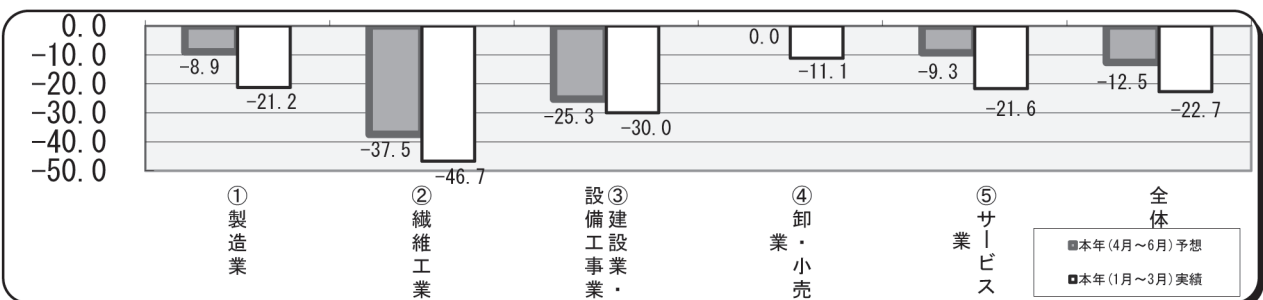


【設備稼働率DI】

設備稼働率DIは、全体で▲10.8ポイント（前年同期▲18.4）と、前年同期に比べて7.6ポイントマイナス幅が縮小。業種別では、製造業が5.3ポイント、繊維工業が15.0ポイントマイナス幅が縮小、卸・小売業ではプラスに転じ、サービス業は、14.3ポイント上昇、設備稼働率は正常という回答が多かった。一方で、建設業・設備工事業では、6.8ポイントとマイナス幅が拡大し、整備稼働率は低下傾向にある。

II. 今後3カ月間(令和4年4月～6月)の推移の予想について

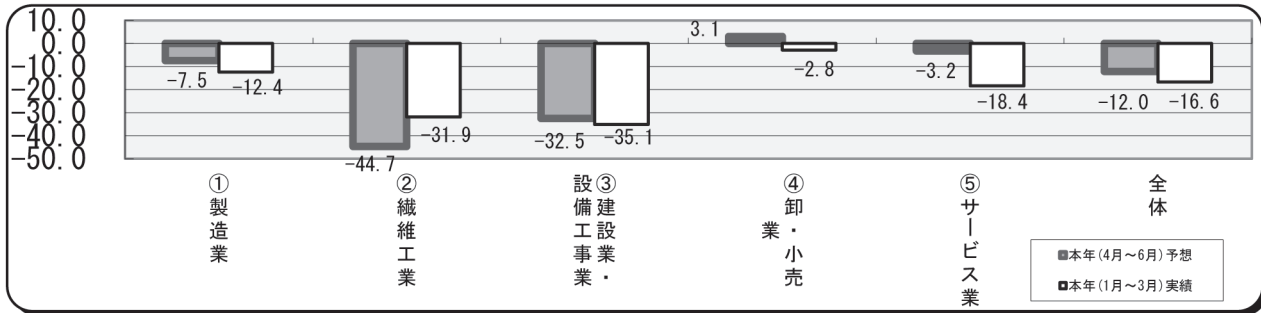
11. 業況は当期（1月～3月期）に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲12.5ポイント(当期▲22.7)と、10.2ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、すべての業種でマイナス幅が縮小したが、依然悪化の見込み。一方、卸・小売業においては、当期と変わらないと予想する事業所が多かった。

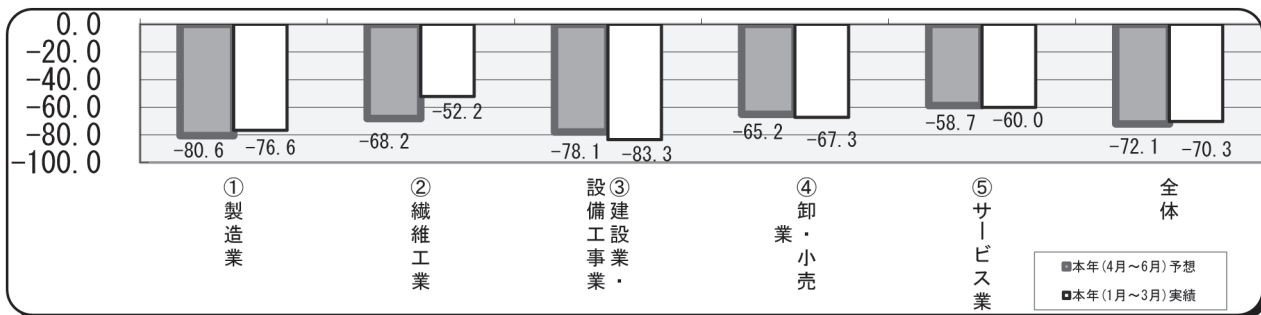
12. 売上高は当期(1月~3月期)に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲12.0ポイント(当期▲16.6)と4.6ポイントマイナス幅が縮小する見込みだが、依然マイナス傾向。業種別では、製造業が4.9ポイント、建設業・設備工事業2.5ポイント、卸・小売業が5.9ポイント、サービス業が15.2ポイントマイナス幅が縮小する見込み。一方で、繊維工業においては、12.8ポイントマイナス幅が拡大し、さらに悪化する見込み。

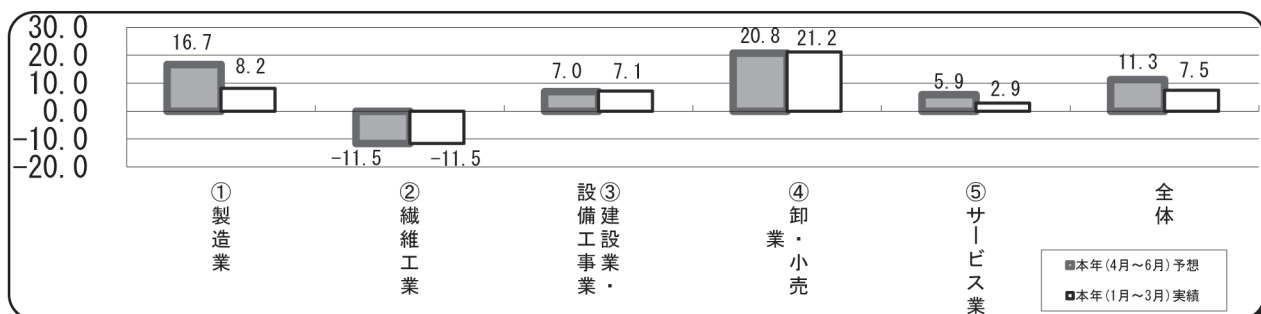
13. 仕入価格(原材料)は当期(1月~3月期)に比べて



【仕入価格(原材料) D I】

仕入価格(原材料)D Iは全体で▲72.1ポイント(当期▲70.3)と、1.8ポイントマイナス幅が拡大する見込み。業種別では繊維工業で16.0ポイントマイナス幅が拡大しているが、そのほかの業種でも当期と比べ、多少の前後はあるものの、依然として価格の上昇が続く見込み。

14. 受注・販売価格は当期(1月~3月期)に比べて

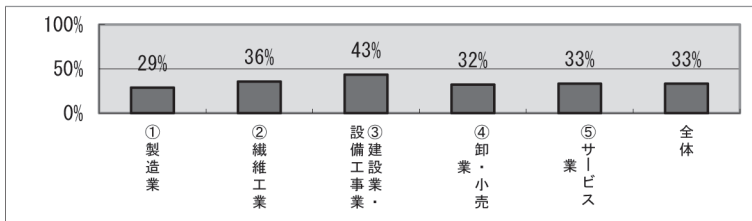


【受注・販売価格D I】

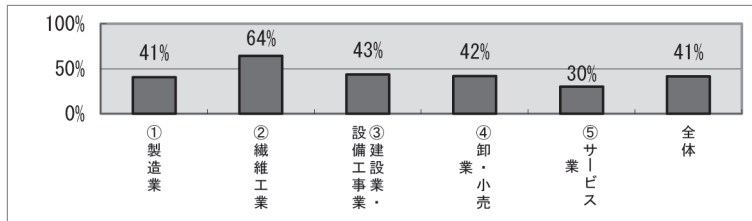
受注・販売価格D Iは全体で11.3ポイント(当期7.5)と、プラスへ好転する見込み。業種別では、繊維工業、建設業・設備工事業、卸・小売業、サービス業で当期とあまり変わらないという回答が多い中、製造業においては8.5ポイントと、価格の上昇を予想する回答が多かった。

Ⅲ. 当期直面している経営上の問題点

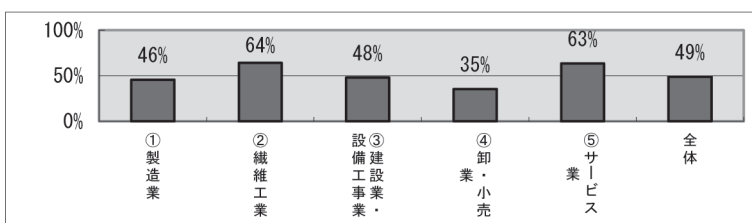
1. 経営の見通し（将来性）		
①. 製造業		17
②. 繊維工業		5
③. 建設業・設備工事業		10
④. 卸売業・小売業		10
⑤. サービス業		9
全	体	51



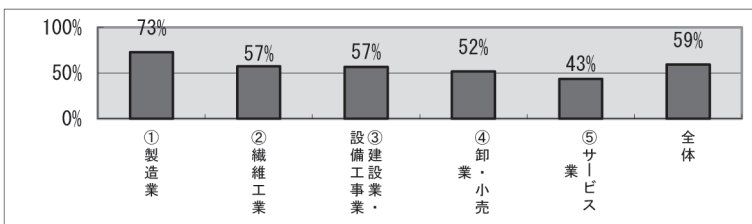
2. 売上（受注）の低下		
①. 製造業		24
②. 繊維工業		9
③. 建設業・設備工事業		10
④. 卸売業・小売業		13
⑤. サービス業		8
全	体	64



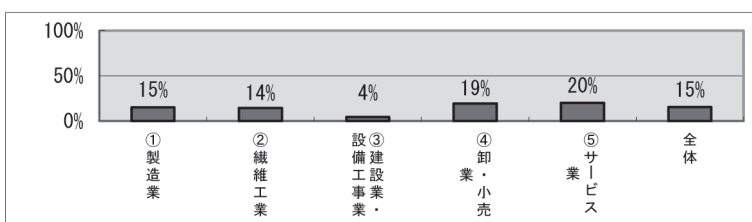
3. 原油価格上昇による収益の悪化		
①. 製造業		27
②. 繊維工業		9
③. 建設業・設備工事業		11
④. 卸売業・小売業		10
⑤. サービス業		18
全	体	75



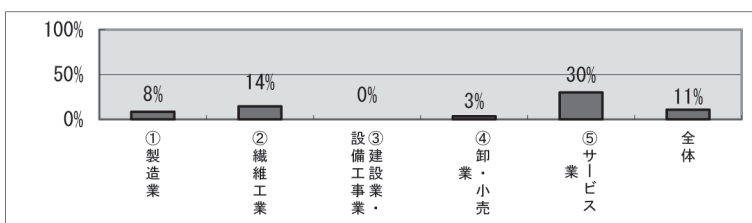
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇		
①. 製造業		43
②. 繊維工業		8
③. 建設業・設備工事業		13
④. 卸売業・小売業		15
⑤. サービス業		12
全	体	91



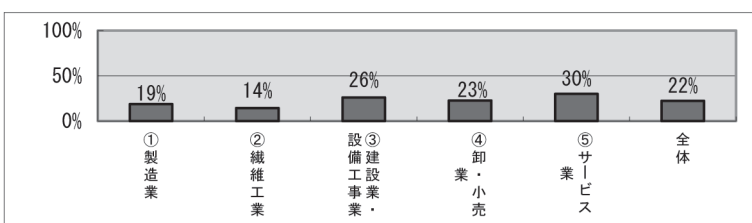
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）		
①. 製造業		9
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		5
全	体	23



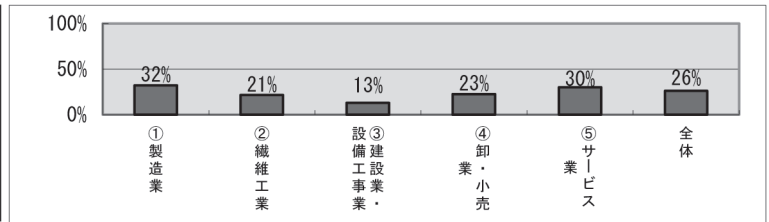
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）		
①. 製造業		5
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		1
⑤. サービス業		9
全	体	17



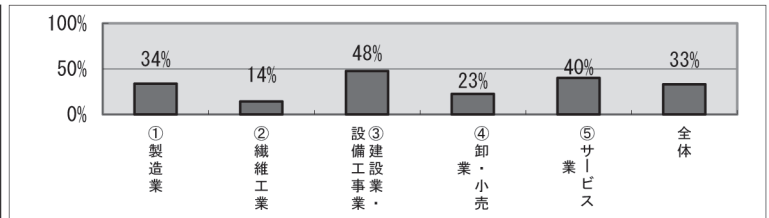
7. 経費（人件費・外注費）の増加		
①. 製造業		11
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		6
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		8
全	体	33



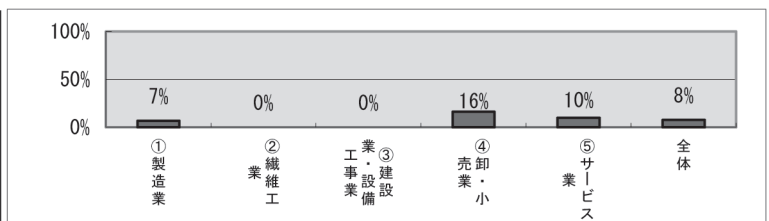
8. 設備・店舗・工場等の老朽化	
①. 製造業	19
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	3
④. 卸売業・小売業	7
⑤. サービス業	9
全 体	41



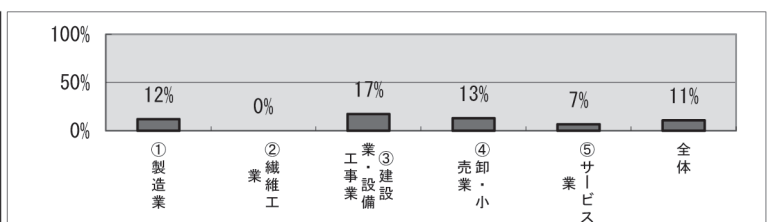
9. 従業員・技術者等の確保難	
①. 製造業	20
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	11
④. 卸売業・小売業	6
⑤. サービス業	11
全 体	50



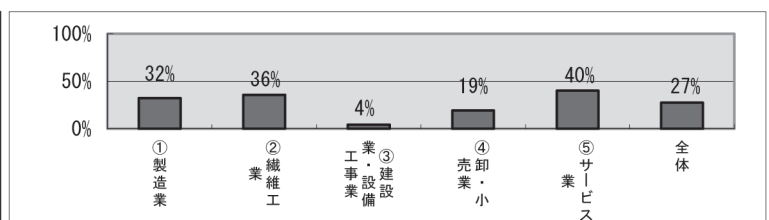
10. 消費者（製品）ニーズの変化	
①. 製造業	4
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	5
⑤. サービス業	3
全 体	12



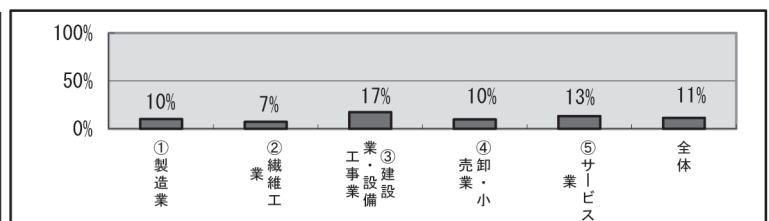
11. 業者間（大企業進出・新規参入）競争の激化	
①. 製造業	7
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	4
④. 卸売業・小売業	4
⑤. サービス業	1
全 体	16



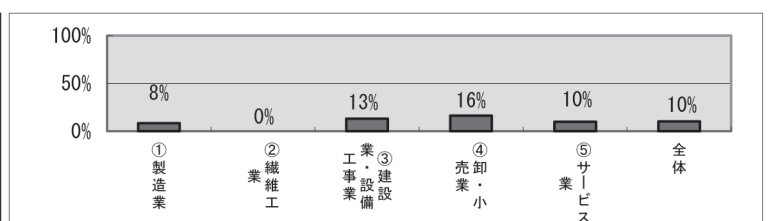
12. 後継者難と事業承継	
①. 製造業	19
②. 繊維工業	5
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	5
⑤. サービス業	12
全 体	42



13. 改正電子帳簿保存方への対応	
①. 製造業	6
②. 繊維工業	1
③. 建設業・設備工事業	4
④. 卸売業・小売業	3
⑤. サービス業	4
全 体	18



14. インボイス制度への対応	
①. 製造業	5
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	3
④. 卸売業・小売業	5
⑤. サービス業	3
全 体	16



【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「原材料（商品）仕入価格の上昇」と回答した企業が59%で最も多く、次いで「原油価格上昇による収益の悪化」（49%）、「売上（受注）の低下」（41%）、「経営の見通し将来性」（33%）、「従業員・技術者等の確保難」（33%）と続いている。

製造業、建設業・設備工事業、卸・小売業においては「原材料（商品）仕入価格の上昇」を、繊維工業、サービス業では「原油価格上昇による収益の悪化」を問題点として多く挙げており、この2つが事業者には大きな影響を与えている。

年明けのオミクロン株の急拡大により、まん延防止等重点措置が発令され、営業制限やイベントの中止が続く中、さらに原油価格を含む資源・資材価格、原材料費の高騰などのコスト増加が収益回復の足かせとなり、中小企業の景況感は、持ち直しの動きがみられるものの、低迷している。

【景況に関することや直面している問題点等のコメント】

◎製造業

- ・ 経理業務においてペーパーレス化を進めるにあたり、会計ソフトを使用したいのですが、どこのメーカーがお勧めでしょうか。
- ・ 鋼材価格の更なる高騰。自動車関係はメーカーが半導体不足から生産調整が続き、収益の悪化に当たる。
- ・ 原材料の不足。価格上昇が続いている。
- ・ 自動車の受注予測が不透明になっている。国内生産は今年から大幅に低下すると思う。新しい商品開発をしていくことが大切。
- ・ コロナ禍で過去のデータは参考にならず、将来も今の世界情勢では二転三転し、どうなるか先が見通せない。当面は様子を見ながら、目先のことにのみ注力していきたいと思う。
- ・ 円安の影響。
- ・ 本年1～3月の期間は売り上げの伸び率が鈍った。4月以降は円安が追い風となり前年以上に売り上げが伸びる見通し。輸出先である中国・米国とも旺盛な購買意欲が衰えていない。国内と海外の温度差を感じる。

◎繊維工業

- ・ 少しずつ回復に向かっている感があるが、販路開拓が必要。

◎卸・小売業

- ・ ロシアとウクライナの戦争により原油価格の上昇、仕入れの上昇、お客様への値上げ、コロナウイルスの落ち着きも非常に厳しくなってくると思う。4月からの法律の改正などあり、景気も厳しくなってくると思う。
- ・ 仕入価格の値上げが激しい。なかなか販売価格へ転嫁するのが難しい。
- ・ 感染及び濃厚接触者となったスタッフの穴埋めに苦慮。
- ・ 観光シーズンの4～5月の人手に期待。
- ・ 小さな店なのでできる努力はしているので、引き続き努力を続けるのみ。

◎飲食・サービス業

- ・ ロシアへの経済制裁により輸出への影響。
- ・ 先の見えないコロナ禍において、経営の不安を感じております。
- ・ 当法人はLPガスを燃料としており、価格上昇が急激なため、この対応に頭を痛めている。
- ・ コロナが終息しないとすべてが動きません。本年秋ごろまで状況が続くと廃業か。

◎建設業・設備工事業

- ・ 電気料金値上げなど、支出増が多く先の見えない状況である。
- ・ 日々業務向上に取り組むのみ。

足利市のチラシ折込調査レポート (2022. 2)

調査地：足利市伊勢町

2022年2月の足利市の折込広告枚数は275枚で前年比プラス2.6%（前々年比はマイナス19.4%）であった【※栃木県4地区平均では319.3枚、前年比+4.8%】。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の64.7%であった。次いでB3(A3)サイズの32.4%となり2種類のサイズが95%以上を占めた。また曜日別では、金曜日が最も多く全体の20.7%に上り、次いで水曜日と土曜日の17.1%（同率）、火曜日の16.4%、日曜日、木曜日、月曜日と続いた。

業種別では食品スーパーが68枚（前年比+6.3%）で、先月に引き続き首位となった。2位は医薬・化粧品で37枚（前年比+2.8%）、3位は家電・精密機器で20枚（前年比-20.0%）であった。4位は輸送機器で17枚（前年比-22.7%）、5位は進学塾・予備校で16枚（前年比+45.5%）となり、上位5業種の中では、食品スーパー、医薬・化粧品、進学塾・予備校が前年を上回る一方、家電・精密機器、輸送機器が2ケタの減となった。

		9月	10月	11月	12月	1月	2月
足利	枚数(枚)	242	329	311	330	314	275
	前年比(%)	▲10.4	9.3	▲4.3	▲12.0	3.0	2.6
	前々年比(%)	▲30.7	▲4.9	▲19.8	▲7.8	▲11.8	▲19.4
栃木県平均	枚数(枚)	299.8	373.5	361.8	392.5	364.8	319.3

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2022年2月1日～28日)

順位	業種(細分類)	枚数			前年比(%)	前々年比(%)
		22年	21年	20年		
1	食品スーパー	68	64	77	+6.3	-11.7
2	医薬・化粧品(ドラッグストア・通販等)	37	36	38	+2.8	-2.6
3	家電・精密機器	20	25	32	-20.0	-37.5
4	輸送機器(自動車・カー用品等)	17	22	23	-22.7	-26.1
5	進学塾・予備校	16	11	25	+45.5	-36.0

サイズ別枚数(2022年2月1日～28日)

サイズ別				
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)
0	6	89	178	2
0.0%	2.2%	32.4%	64.7%	0.7%

曜日別枚数

(2022年2月1日～28日)

曜日別						
日	月	火	水	木	金	土
33	14	45	47	32	57	47
12.0%	5.1%	16.4%	17.1%	11.6%	20.7%	17.1%

調査：(株)栃木読売 IS